

## I 事業の概要（地域の実情含む）

- 1 震度6強の地震が発生し、それに伴う校舎内での出火を想定し、所定の場所まで速やかに避難する。
- 2 消火訓練、降下訓練等により、危険回避の知識、技術を養う。
- 3 防災に関する技能を高め、災害時に幼稚園児や小学生の避難を支援できる力や態度を育成する。
- 4 沿岸被災地での被災地学習やボランティア体験を通して、生徒個々の「いきる かかわる そなえる」を確認させる。また、その情報を地域に発信することで、震災の風化を防ぐ。

## II 取組の概要

### 1 避難訓練

#### (1) 盛岡市シェイクアウト訓練

【期 日】8月29日（水）

【参加者】全校生徒・教職員（647名）

【内 容】地震時における自らの身を守るための一斉訓練に参加した。（実施日9月1日は文化祭のため早めて実施）

#### (2) 白梅幼稚園合同火災避難訓練

【期 日】9月3日（月）

【参加者】白梅幼稚園園児・ボランティア希望生徒・教職員（91名）

【内 容】異校種連携の取組として、白梅幼稚園と合同で火災避難訓練を実施した。

【感想等】「安全に避難出来るよう、子どもたちの歩幅似合わせて声を掛けながら移動した。普段は小さい子どもと接する機会は少なく、災害時には慌ててしまうと思うので貴重な体験が出来た」命を守り抜くための行動や共助の精神を涵養することができた。



手をつないで避難誘導

#### (3) 避難訓練

【期 日】10月12日（金）

【参加者】全校生徒・教職員（647名）

【内 容】地震発生後、出火を想定した避難訓練、降下訓練及び消火訓練を実施した。県教育委員会指導主事、モデル地域内の連携校の防災担当者に見学いただき、意見交換会を実施した。

【感想等】本校の取組について紹介し、連携校から助言をいただき、各学校の既存の防災教育について情報交換することで、今後の連携について確認できた。



消火訓練の様子

### 2 救急法講習

#### (1) 教職員救急法講習会

【期 日】6月14日（木）

【参加者】全教職員

【内 容】教職員を対象にAEDを用いた救急心肺蘇生法講習会を実施した。

#### (2) 1学年救急法講習会

【期 日】2月14日（木）～15日（金）

【参加者】1学年全生徒・教職員

【内 容】1学年生徒を対象にAEDを用いた救急心肺蘇生法講習会を実施した。



講習の様子

### 3 被災地学習（陸前高田市）

1学年生徒全員で被災地陸前高田市を訪問し、震災学習及びボランティア活動を実施した。訪問に先立って事前学習、訪問後の事後学習及び発表展示を行った。

#### (1) 事前学習

ア 講演会

【期 日】10月22日（月）

【参加者】1学年全生徒・教職員（215名）

【内容】東日本大震災当時、現地取材した岩手日報社記者の出前授業を受講した。岩手日報社制作のデジタルアーカイブ「犠牲者の活動記録」で犠牲者の避難行動を視覚的に理解し、被災地の課題や復興の状況を学習した。

【感想等】該当学年は、震災当時幼く記憶が少ない。被害の実態や教訓を学び、自らの命を守るために主体的に行動する態度や安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上を図ることができた。



岩手日報社記者による出前授業

#### イ 「花ろうそく」制作

【期 日】10月23日（火）～24日（水）

【参加者】華道部生徒・有志・教職員（23名）

【内容】華道部が被災地に贈っていた、花型の手作りのろうそくを2日間で200個程制作し、陸前高田市に持参した。

【感想等】不用となったろうそくの回収や手書きのメッセージを記した折り紙制作を他学年の生徒も協力し、全校での取組ができた。



「ろうそく」回収



手作りメッセージ



「花ろうそく」制作

#### (2) 現地学習

【期 日】10月30日（火）

【参加者】1学年全生徒・引率職員（215名）

【内容】

##### ア 震災学習

一般法人マルゴト陸前高田の方々のガイドで市内の施設を見学した。東日本大震災追悼施設を

見学し黙祷を捧げた。隣接する「陸前高田 復興まちづくり情報館」では、震災に関わるパネル展示や模型の解説をしていただいた。また、震災の遺構として保存されている米沢商会、旧道の駅高田松原、旧気仙中学校や奇跡の一本松を見学し、当時の津波の大きさや震災の様子を伺った。現在施工中の現場見学では、これまでの工事過程や復興計画について、また、被災地の現状と復興への理解を深めた。

【感想等】

「募金という復興の協力の仕方もあるけれど、実際に足を運んで現地の方の話聞き現状を自分の目で見ることも大切だと思った」「高田松原の緑化整備を自分達の手で行うことが出来て直接復興に関わることが出来た」「役に立ったという達成感を味わうことが出来た」「復興に少しでも貢献することができて良かった」という感想が多く、現地での学習や体験を通して被災地の復興や発展についての意識がこれまで以上に高まり、自身の社会参画について考えるようになった。



東日本大震災追悼施設訪問



復興まちづくり情報館見学



復興工事現場見学



奇跡の一本松

##### イ ボランティア活動

高田松原を守る会の会員の方々の案内により防潮堤を見学し、岩手県による高田松原保安林復旧工事計画や守る会の活動内容について伺った。その後、松の苗が植樹された周辺の草取り等の緑化整備ボランティア活動を実施した。

また、華道部と有志で制作した「花ろうそく」を贈呈した。



防潮堤見学



高田松原緑化整備

### (3) 事後学習

【期 日】11月7日(水)～22日(木) (3回)

【参加者】1学年全生徒

- 【内 容】①現地で学んだことを各自でまとめ、級友と情報交換や意見交換をした。  
 ②個々にまとめたものを発表し合い、グループで模造紙にまとめた。  
 ③クラス内で発表会を行った。



クラス毎の発表会

### (4) 発表・展示

ア 実践発表 (岩手県立大学宮古短期大学部)

【期 日】12月8日(土)

【参加者】生徒会役員・陸上競技部・文学研究部・希望者 (23名)

【内 容】第1回地域づくりワークショップ (NPO法人いわてGINGA-NET・岩手県保健福祉部地域福祉課主催) 子どもや若者が主体となって取り組む地域活動 (ボランティア、復興・防災) に関する研修に参加し、本校のボランティア活動の実践報告をした。

【感想等】ワークショップも行われ、「ふみだす」「伝える」「働く」「仲間づくり」の4つのテーマに分かれて、校種や職種を超えて、様々な意見交換が行われた。高校生にできることが、まだまだたくさんあることに改めて気づくことができ、これからの本校の活動を更に発展させるためのヒントを得ることもできた。



岩手県立大学宮古短期大学部での発表

イ 展示 (本校・白梅ホール)

【期 日】12月17日(月)～20日(木)

【内 容】三者面談中に発表内容を展示した。



グループでまとめたものを展示

ウ 実践発表 (岩手県立大学アイーナキャンパス)

【期 日】12月22日(土)

【参加者】生徒 (3名)・引率教員 (1名)

【内 容】いわて学生ボランティアネットワーク研修会に参加し、本校のボランティア活動の実践内容を発表した。

エ 連携校への情報提供

【期 日】2月上旬

【内 容】実践報告書を作成後、地域内連携校へ送付し情報提供した。

## III 取組の成果と課題

### 1 成果

防災教育や被災地での学習を通じて、災害の危険に際して、自らの命を守り抜くために「主体的に行動する態度」の育成や、安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上につながった。避難訓練においては、生徒を安全に避難誘導する体制の確立を図るとともに生徒自らが安全に避難しようとする意識の高揚を図ることができた。さらに、白梅幼稚園との合同避難訓練や盛岡市シェイクアウトへの参加を通じて、それぞれの場所で自身を守りながら自らの命だけでなく周りの命も守り抜くための行動を身に付けさせることができた。ボランティア体験活動においては、防災や復興に貢献しようとする態度の育成を図ることができた。また、被災地でのボランティア活動を通じて、共助の精神を培うとともに岩手の高校生として何ができるかを一人ひとりに深く考えさせる契機となった。

### 2 課題

地域防災や復興・発展に関わる人材を育成するために、本事業を通じて生徒が得た学びや社会貢献を果たそうとする意欲を一過性のものとして終わらせることなく、全教職員が防災教育や復興教育の意義や在り方についての共通認識を更に深め、日々の教育活動を通じて継続的かつ組織的に指導を行っていく必要がある。